

7 市民の生物多様性に関する意識

(1) 生物多様性についての市民アンケート

①調査対象等

1) 調査対象・人数

市民 2,000 人（無作為抽出）

2) 調査時期

平成 29 年 6 月 19 日に発送、6 月 30 日締め切り

3) 調査方法

郵送により送付、回答についても郵送で収集

4) 回答数（回答率）

731（回答率 36.6%）

※締め切り後も返送が多く続いたため、7 月 31 日到着分までを有効な回答としました。

5) アンケート内容

アンケートの様式は、以下に示すとおりです。

アンケート様式 (1)

生物多様性についての市民アンケートのお願い

日頃、浜松市の環境行政にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。
浜松市では、生物多様性保全に向けた取り組みを体系的・総合的に推進するため、「生物多様性はままつ戦略」を平成25年3月に策定しました。
平成30年に中間見直しの年度を迎えることから、今年度に同戦略の改定を予定しています。
そこで、市民の皆様から、日頃の「生物多様性」に対する意識や、市の取り組みの進め方について、ご意見、ご要望をお聞きするため、市民アンケートを実施することとしました。
この調査を実施するにあたり、市内にお住まいの20歳以上の皆様から無作為で2,000人の方を選ばせていただきました。お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケートにご回答いただきますようお願いいたします。

平成29年6月 浜松市長 鈴木康友

回答についての注意点

- 1 本調査は無記名ですが、封書のあて名の方がご回答ください。
- 2 ご回答は、各設問に該当する番号を選択肢の中から選んで、○で囲んでください。「その他」を選んだ場合は、その具体的な内容をご記入ください。
- 3 この調査結果は、上記目的以外に使用することはありません。
- 4 ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて6月30日(金)までに返送ください。
- 5 返信用封筒は受取人払いですので、切手を貼っていただく必要はありません。
- 6 本調査は、浜松市環境部環境政策課が実施しており、調査の事務は株式会社地域環境計画に委託しています。

受託者

株式会社地域環境計画

TEL 052-760-2822 FAX 052-760-2823

お問い合わせ先

浜松市役所 環境部 環境政策課 環境共生グループ 足立・永田

〒432-8023 浜松市中区鴨江三丁目1-10

TEL 053-453-6149 FAX 053-450-7013

Email: kankyou@city.hamamatsu.shizuoka.jp

アンケート様式 (3)

- ア 生物多様性とは、森や草地、田畑、河川、海辺などの多様な自然の中で、数多くの種類の生きものが互いにつながりを持ちながら生息・生育していることをいいます。
- イ 外来生物とは、意図的・非意図的を問わず、国外や国内の他地域から人の手によって移入されることにより、本来の分布域を超えて生息・生育する生物種のことをいいます。
- ウ 生態系サービスとは、空気や水、防災、自然の風景による癒しの効果など古来より多様な動植物によって私たち人間の生活にもたらされる様々な恵みを指します。生態系サービスには、供給サービス、調整サービス、文化的サービス、基盤サービスの4つがあります。
- エ 地産地消とは、地域生産・地域消費の略語です。地元で生産されたもの（主に農林水産物）を地元で消費することを指します。
- オ 里地里山とは、都市域と原生的自然との中間に位置し、集落を取り巻く二次林と、それらと混在する農地、ため池などで構成される地域です。
里海とは里山と同じく人と自然が共生する場所であり、文化や流通を支えてきた大切な海域を指します。

問6 あなたは、次の生きものを知っていますか。該当する番号に○をつけてください。
(複数回答可)

- 1) アカウミガメ 2) ヤリタナゴ 3) カワバタモロコ 4) ギフチョウ
5) ヒメヒカゲ 6) シブカワツツジ

問7 農業や林業は、生きものに生息・生育の場（里地里山）を与えたり、その営みが生きものの生息・生育環境を守ったりすることに役立っています。農林業と生きものをつなぐ意識したことはありますか。該当する番号1つに○をつけてください。

- 1) 常に意識している 2) 時々意識する 3) あまり意識しない
4) 全く意識しない 5) 分からない

問8 あなたは、次の生きものを知っていますか。該当する番号に○をつけてください。
(複数回答可)

- 1) アライグマ 2) クリハラリス（タイワンリス） 3) ヌートリア
4) ミシシippアカミミガメ 5) オオクチバス（ブラックバス）
6) オオキンケイギク 7) メリケントキンソウ

アンケート様式 (4)

問9 問8の選択肢に挙げた生きものはすべて外来生物です。あなたは、外来生物問題を知っていますか。該当する番号1つに○をつけてください。

- 1) 言葉も意味も知っている
- 2) 聞いたことはあるが、意味は知らない
- 3) 知らない

外来生物問題とは、元々その地域にいなかった外来生物が定着することによって生じる以下の影響などを指します。

- ア 在来の生きもの（在来種）を捕食したり、生活環境を競合したりすることによって、在来種が減少・絶滅するといった生態系への影響
- イ 農作物や樹木を食い荒らしたり、漁業の対象となっている魚を捕食したりすることによって生産量や漁獲量が減少するといった農林水産業への影響
- ウ その地域には存在しなかった病原体を持ち込み、病原体が人に感染することで病気を発症するといった人間の健康への影響

問10 あなたは、外来生物を駆除することについて、どのように考えますか。あなたの考えに一番近い番号1つに○をつけてください。

- 1) 積極的に駆除すべき
- 2) 命を奪うことに抵抗があるが、駆除することについてある程度はやむを得ない
- 3) 農作物や病気などの害をもたらす外来生物のみ駆除すれば良い
- 4) 駆除する必要はない
- 5) 分からない

問11 浜松市の自然であなたが好きなもの、大切に思うもの、誇りに思うもの、未来に残したいと思うものはありますか。該当する番号に○をつけてください。

(○は3つまで)

- 1) 北遠地域の森林（天竜美林・白倉峡など）
- 2) 阿多古川、気田川、都田川などの清流
- 3) 遠州灘海岸（中田島砂丘を含む）
- 4) 姫街道の松並木
- 5) 竜ヶ岩洞
- 6) 浜名湖（奥浜名湖を含む）
- 7) 三ヶ日のみかん畑の風景
- 8) 市街地の公園（佐鳴湖公園・浜松城公園など）
- 9) 北区や天竜区における棚田の風景
- 10) その他 ()
- 11) その他 ()
- 12) その他 ()

アンケート様式 (5)

問12 浜松市の自然や希少な動植物を守るためには、多くの労力とお金をかけて、その生息・生育環境を保全していく必要があります。あなたは、保全する主体として誰が適切だと思いますか。該当する番号に○をつけてください。(複数回答可)

- 1) 土地の所有者
- 2) 地元住民
- 3) 地元の活動団体 (NPO)
- 4) 地元の企業 (CSR 活動など)
- 5) 行政

CSR とは、「企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility)」として企業が利益を追求するだけでなく、事業活動が社会に与える影響に責任を持ち、適正な雇用、労働条件、消費者への対応、環境問題や地域社会への貢献など、企業が市民として果たすべき責任を指します。

問13 生物多様性を保全するため、市が取り組むことについて、あなたは何を優先すべきだと思いますか。該当する番号を優先すべき順に3つ選んでください。

- 1) 森林の手入れと育成事業の推進
- 2) 有機栽培などの環境保全型農業の普及と地産地消の推進
- 3) 生きものに配慮した多自然川づくり
- 4) 里海である浜名湖のアマモ場や魚介類の保全
- 5) 里地里山のある中山間地域の自然と市街地の保全イベント
- 6) 希少な動植物の保護・保全対策
- 7) アライグマやクリハラリスなどの外来生物の駆除
- 8) 市民や事業者に対する生物多様性の意味や役割の啓発
- 9) 学校教育における自然体験学習などの環境教育の充実
- 10) 湖や河川における水質改善などの環境対策
- 11) その他 ()
- 12) その他 ()
- 13) その他 ()

優先順位1位 ()

優先順位2位 ()

優先順位3位 ()

問14 あなたは、子供のころに山や川、海、森林などで遊んだ経験がありますか。該当する番号1つに○をつけてください。

- 1) 日常的に遊んでいた
- 2) たまに遊んでいた
- 3) ほとんど遊ばなかった

アンケート様式 (6)

問15 現在、あなたは仕事以外で、山や川、海、森林などに出かける機会がありますか。
該当する番号1つに○をつけてください。

- 1) 週に1回かそれ以上 2) 月に1回程度 3) 3~4か月に1回程度
4) 半年以上行っていない

問16 あなたは、市や市民団体などが開催する自然環境を対象とした保全活動（河川・海岸清掃、自然配慮型農業体験、里地里山整備、希少動植物の保護、エコツーリズムへの参加、自然学習会など）に参加したことがありますか。該当する番号1つに○をつけてください。

- 1) 良く参加している ⇒ 問17へ
2) 参加したことがある ⇒ 問17へ
3) 参加したことはないが、参加したいと思っている ⇒ 問18へ
4) 参加する気はない ⇒ 問19へ

問17 【問16で1もしくは2を選択された方へ】参加された具体的な活動名を教えてください。

{ }

問18 【問16で3を選択された方へ】どのような活動なら参加したいと思いますか。

{ }

問19 平成25年3月に策定した「生物多様性はままつ戦略」では、市域の自然環境の現状や課題、目指すべき将来像と基本方針、市の行動計画などについてご紹介しています。あなたは、「生物多様性はままつ戦略」を知っていましたか。該当する番号1つに○をつけてください。

- 1) 知っていて、読んだことがある 2) 名前は知っていた
3) 知らなかった

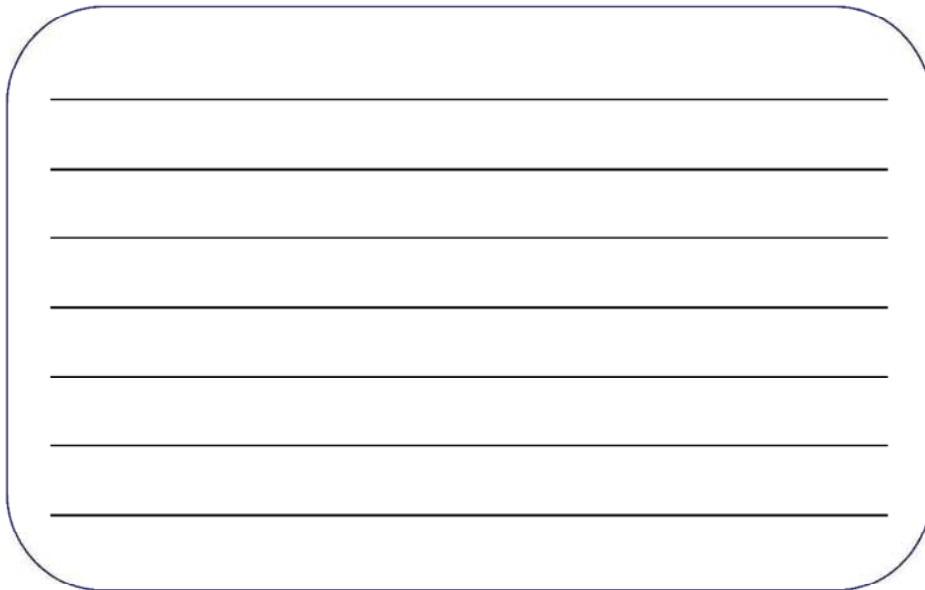
アンケート様式 (7)

問20 今年度に「生物多様性はままつ戦略」を改定する予定ですが、改定するにあたり、市民の皆様は今よりも「生物多様性の保全」について知っていただき、理解を深めていただきたいと思います。

そのためには改定方針をどのようにしたら良いと、あなたは思いますか。あなたの考えに一番近い番号1つに○をつけてください。

- 1) 絵や写真を多く使い親しみやすくする
- 2) 浜松市の自然について詳細なデータを見ることができる
- 3) 市の取り組みを詳しく掲載する
- 4) 地域での具体的な活動がよく分かる
- 5) その他 ()

問21 生物多様性に関するご意見を自由に書いてください。



~~~~ ご協力ありがとうございました ~~~~

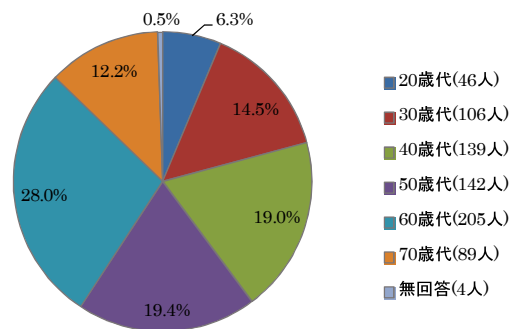


## ②アンケート結果（概要）

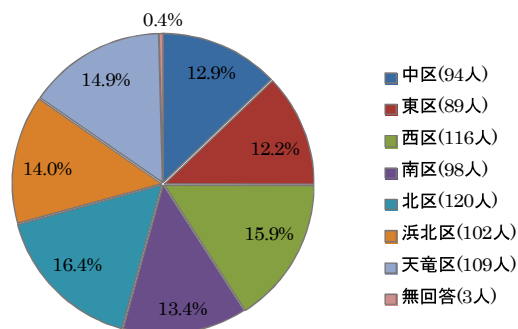
- ・生物多様性の認知度・理解度は低かった（30.4%）。また、生物多様性はまます戦略の認知度も低かった（8.2%）。
- ・一方、外来生物については、言葉の認知度（88.6%）・外来生物問題の認知度（79.1%）・駆除への理解（95.2%）がある程度浸透していることが分かった。
- ・浜松市の自然や希少な動植物を守るために適当な保全主体としては、行政が最も多かったものの、そのほかの「地元住民」「地元の活動団体」「地元の企業」も保全主体として一定数挙がった。
- ・仕事以外で自然の中に出かける機会や、保全活動への参加は、あまり多くなく、一方でこれらの頻度の高さが、農林業と生きもののつながりの意識の高さにつながる傾向が見られたことから、広報や参加しやすい取組みを検討する必要があることが分かった。

## ③アンケート結果

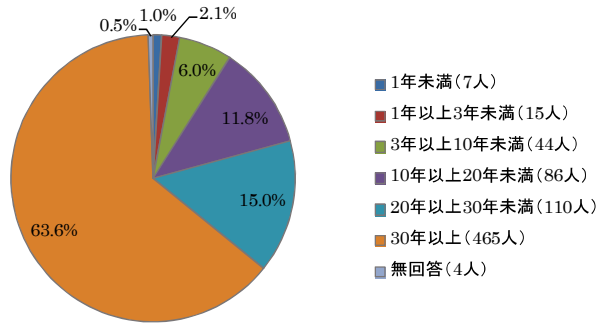
### 【問1】年齢（n=731）



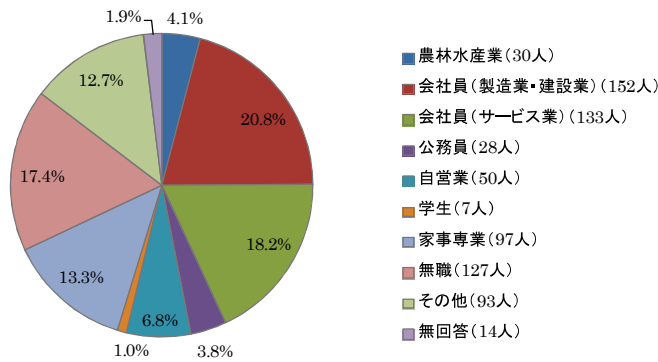
### 【問2】居住区（n=731）



【問3】 居住年数 (n=731)



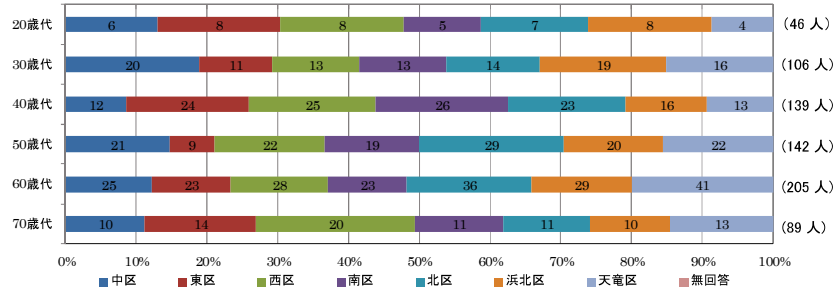
【問4】 職業 (n=731)



【問2】 居住区

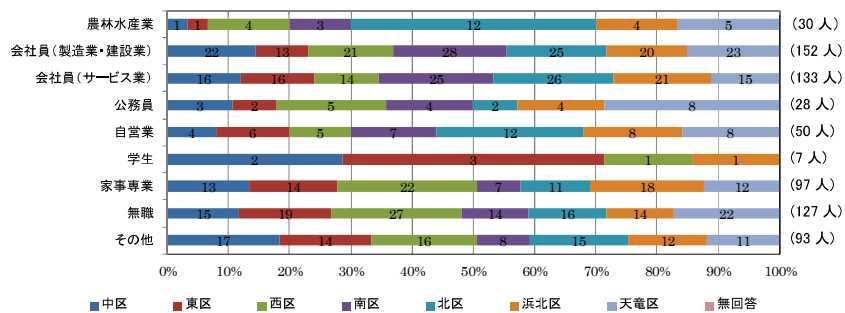
■年代別

※グラフ内の数は、回答数



■職業別

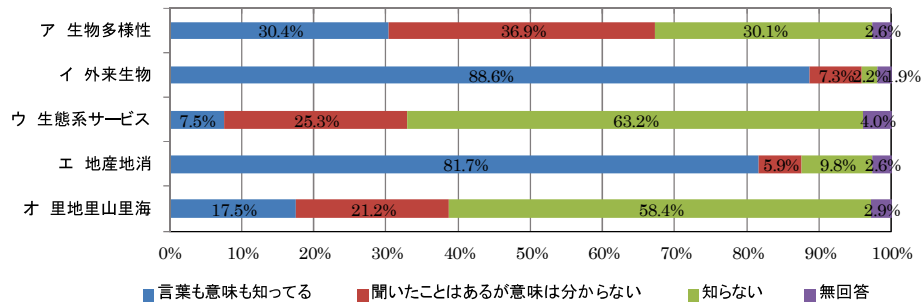
※グラフ内の数は、回答数



回答者について

- ・年齢は、60歳代が多く20歳代が最も少なかった。
- ・居住年数は、30年以上が60%を占めた。
- ・居住地ごとの職業別の割合では、農林水産業で北区居住者の割合が高く、中区、東区が低かった。一方、学生は、中区、東区で割合が高かった。

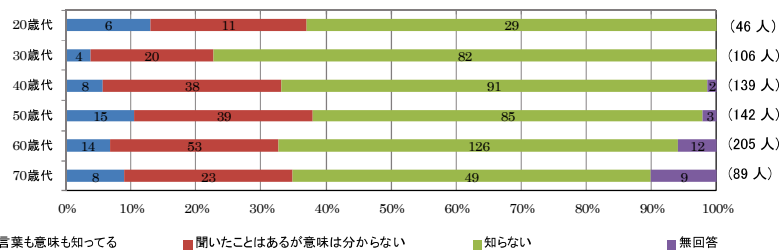
【問5】言葉の認知度（n=731）



ウ 生態系サービスの認知度

※グラフ内の数は、回答数

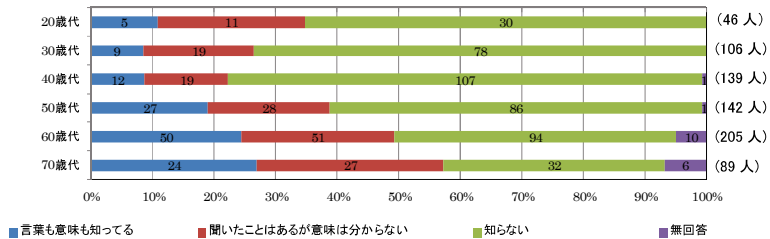
■年代別



オ 里地里山里海の認知度

※グラフ内の数は、回答数

■年代別

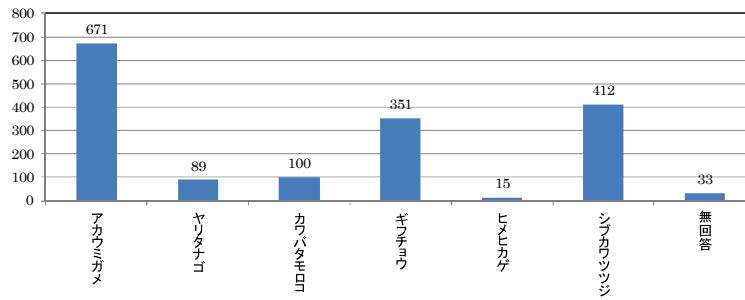


言葉の認知度について

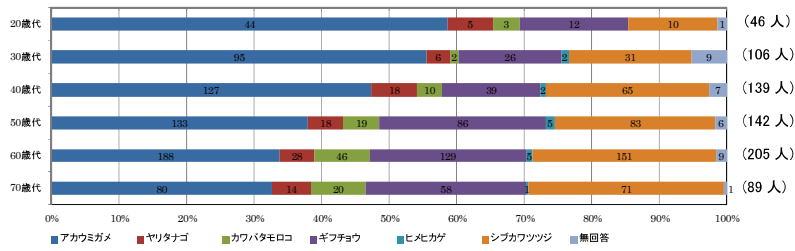
- ア) 「言葉も意味も知っている」が30.4%と少なかった。
- イ) 「言葉も意味も知っている」が約9割を占めた。
- ウ) 「知らない」が全体の6割、「聞いたことはあるが意味は分からない」まで含めるとほぼ9割が知らないことから、普及啓発がまだまだ不十分であることが分かった。年代別では、30歳代で「知らない」が約8割を占め、他の世代と比べると高かった。
- エ) 「言葉も意味も知っている」が最も多く、8割を占めた。
- オ) 「知らない」が全体の約6割、「聞いたことはあるが意味は分からない」まで含めるとほぼ8割が知らないことから、普及啓発がまだまだ不十分であることが分かった。年代別では、特に20～40歳代へ普及啓発が必要と考えられた。

外来生物と地産地消についての認知度は高かったが、それ以外の言葉の認知度は、あまり高いとは言えず、普及啓発の必要性があることが分かった。

【問6】希少種 (n=1,671) ※複数回答あり



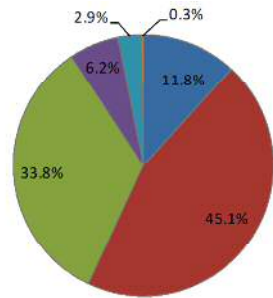
■年代別 ※グラフ内の数は、回答数



希少種について

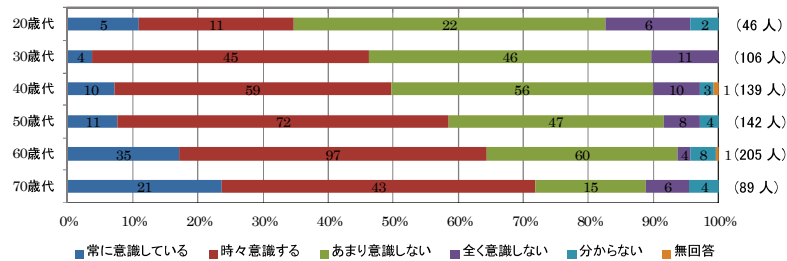
- ・ヤリタナゴ、カワバタモロコ、ヒメヒカゲを知っている人は少なく、特に「ヒメヒカゲ」はほとんどの人が知らなかった。
- ・アカウミガメやギフチョウ、シブカワツツジは広く知られていることが分かったが、年代別では、それら3種の認知度について、ややばらつきが見られた。

【問7】農林業といきものつながり (n=731)



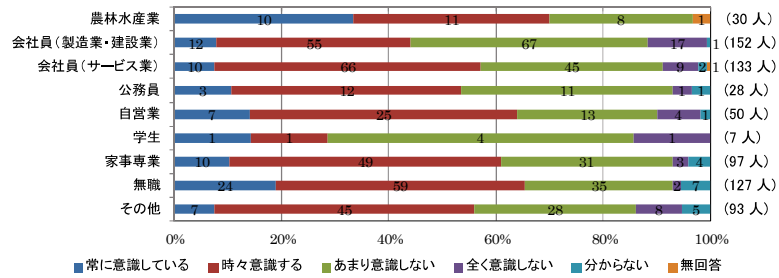
|          | 人   | %    |
|----------|-----|------|
| 常に意識している | 86  | 11.8 |
| 時々意識する   | 330 | 45.1 |
| あまり意識しない | 247 | 33.8 |
| 全く意識しない  | 45  | 6.2  |
| 分からない    | 21  | 2.9  |
| 無回答      | 2   | 0.3  |

■年代別 ※グラフ内の数は、回答数



## ■職業別

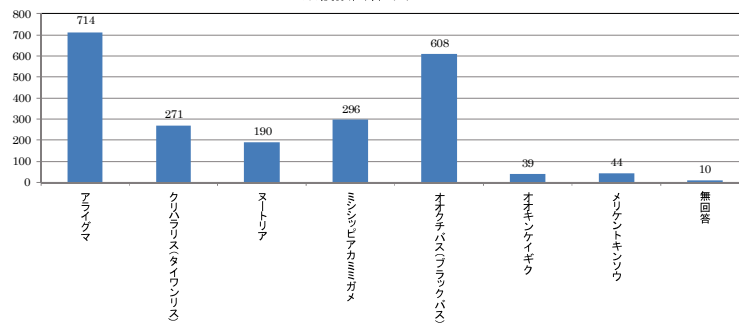
※グラフ内の数は、回答数



### 農林業といきものつながりについて

- ・「時々意識する」が最も多く、「常に意識している」と合わせると、意識する人が半数を超えていた。
- ・年代が若くなるほど、意識しない傾向が見られた。
- ・職業別で、比較的意識が高いのは農林水産業のみであった。学生は、意識しないが他の職種に比べると高かった。

### 【問8】外来生物 (n=2,172) ※複数回答あり

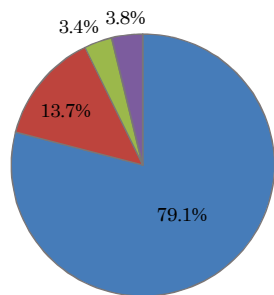


### 外来生物について

- ・アライグマなどの動物はおおむね知られているが、オオキンケイギク、メリケンキンソウといった植物の認知度は総じて低かった。
- ・アライグマとオオクチバスは広く知られていた。アライグマはおそらくアニメによるもの、オオクチバス（ブラックバス）はスポーツフィッシングとして古くから知られていたためと考えられる。

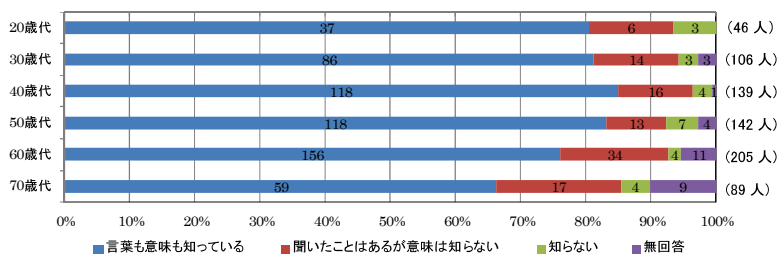


【問 9】 外来生物問題 (n=731)

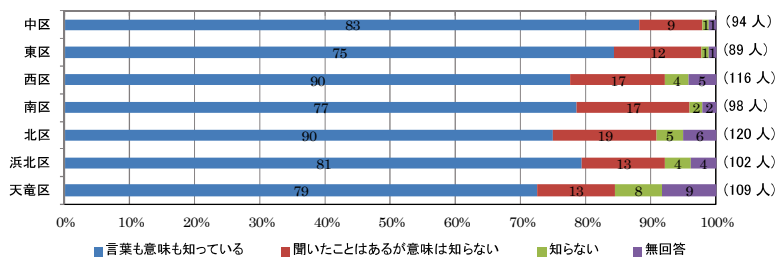


|                   | 人   | %    |
|-------------------|-----|------|
| 言葉も意味も知ってる        | 578 | 79.1 |
| 聞いたことはあるが意味は分からない | 100 | 13.7 |
| 知らない              | 25  | 3.4  |
| 無回答               | 28  | 3.8  |

■年代別 ※グラフ内の数は、回答数



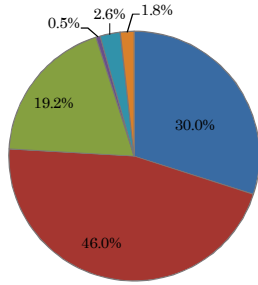
■居住地別 ※グラフ内の数は、回答数



外来生物問題について

- ・「言葉も意味も知っている」が最も多く約 8 割を占めた。最近では、マスコミ等でも取り上げられる機会も増えていることから、浸透していると考えられる。
- ・年代別では 60～70 歳代で「言葉も意味も知っている」が他の世代に比べやや低かった。
- ・居住地では、中区、東区で比較的認知度が高く、天竜区で低かった。

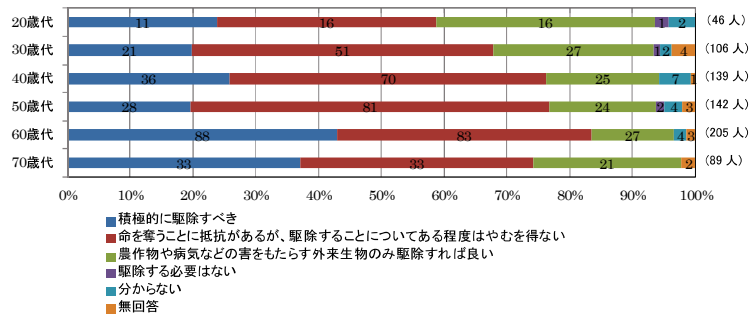
【問 10】 外来生物の駆除 (n=731)



|                                     | 人   | %    |
|-------------------------------------|-----|------|
| 積極的に駆除すべき                           | 219 | 30.0 |
| 命を奪うことに抵抗があるが、駆除することについてある程度はやむを得ない | 336 | 46.0 |
| 農作物や病気などの害をもたらす外来生物のみ駆除すれば良い        | 140 | 19.2 |
| 駆除する必要はない                           | 4   | 0.5  |
| 分からない                               | 19  | 2.6  |
| 無回答                                 | 13  | 1.8  |

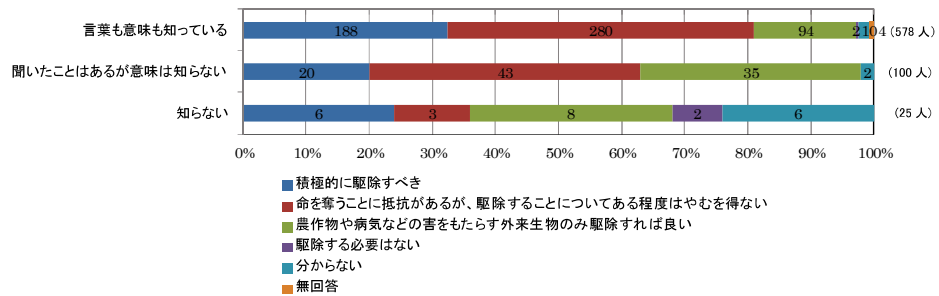
■年代別

※グラフ内の数は、回答数



■外来生物問題

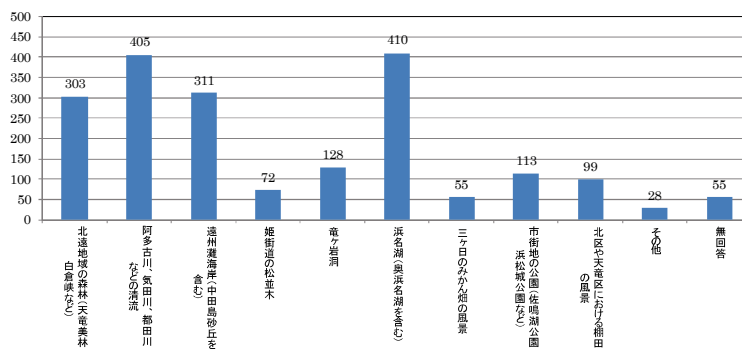
※グラフ内の数は、回答数



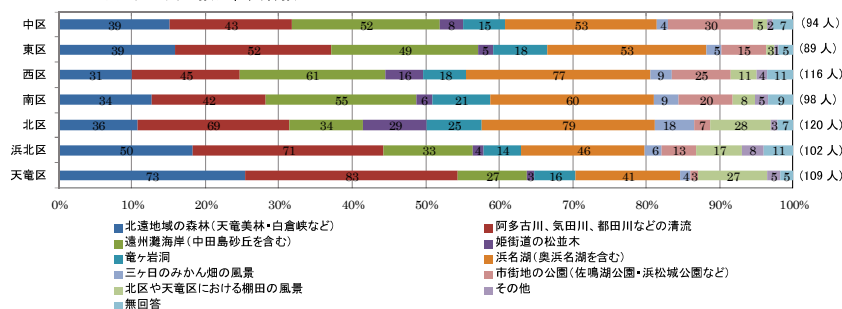
外来生物の駆除について

- ・全体の95%が駆除に理解を示した。
- ・60～70歳代では、「積極的に駆除すべき」が40%前後を占めたが、20～50歳代では30%以下であり、年代による差が見られた。
- ・外来生物問題の言葉の意味を知らない人では、それ以外の人と比べると駆除への理解が低かった。

【問 11】浜松市の自然 (n=1,979) ※複数回答あり



■ 居住地別 ※グラフ内の数は、回答数



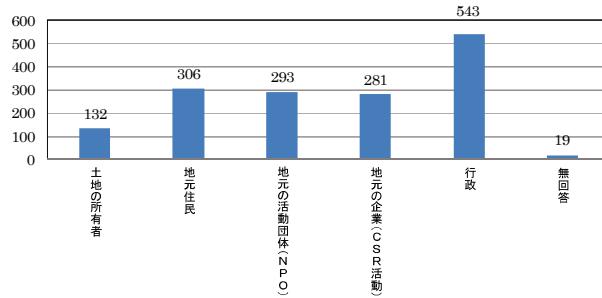
■ 「その他」の意見

- ・天竜川、天竜川中瀬緑地、天竜川河川敷
- ・佐鳴湖、佐鳴湖の野鳥
- ・椎ノ木谷保全地区
- ・点在する湿地、干潟
- ・三方原台地区域の農地、畑
- ・三方原開拓防風林
- ・佐久間ダム
- ・浜名湖の生きもの、浜名湖ガーデンパーク
- ・静岡県立森林公園
- ・太平洋富士見平
- ・四ツ池公園
- ・浜松城

浜松市の自然について

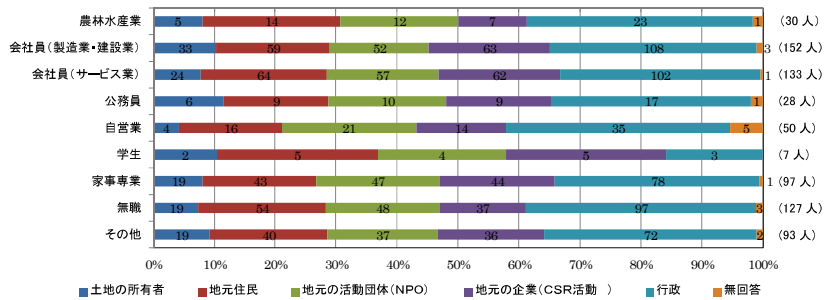
- ・「浜名湖(奥浜名湖を含む)」と「阿多古川、気田川、都田川などの清流」が最も多く、次いで「北遠地域の森林(天竜美林・白倉峡など)」と「遠州灘海岸(中田島砂丘を含む)」が多かった。
- ・居住地別では、天竜区と浜北区では「北遠地域の森林(天竜美林・白倉峡など)」と「阿多古川、気田川、都田川などの清流」の割合が比較的高く、それ以外の区では、「浜名湖」の割合が比較的高かった。
- ・「その他」では、「天竜川」「佐鳴湖」関連、また「椎ノ木谷保全地区」「点在する湿地、干潟」「三方原台地の農地や畑」といった意見が挙げられた。

【問 12】 保全主体 (n=1,574) ※複数回答あり



■職業別

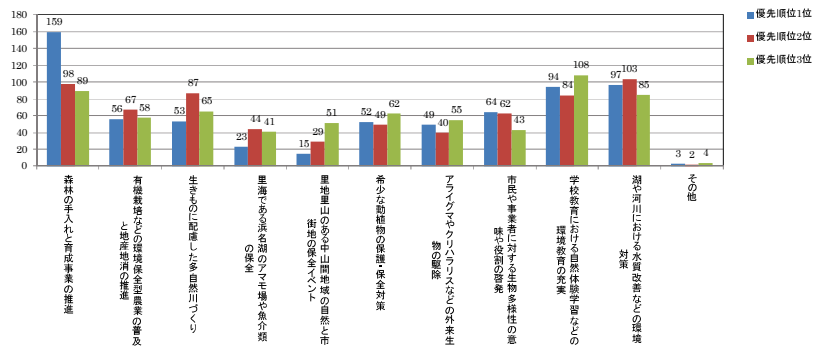
※グラフ内の数は、回答数



保全主体について

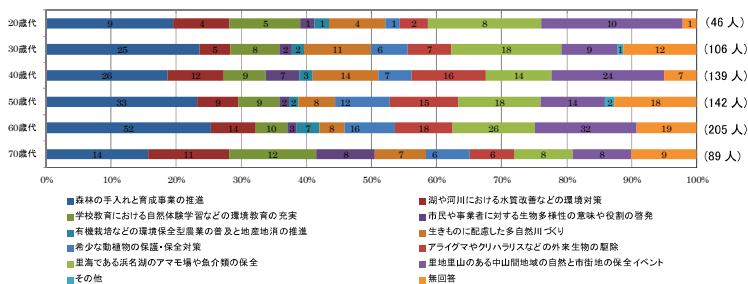
- ・「行政」が最も多かったが、それ以外の「地元住民」「地元の活動団体」「地元企業」も一定数あった。
- ・職業別では、学生で「行政」と回答した割合が他と比べて低く、「地元の企業」の回答が多かった。また、自営業では「土地の所有者」とした割合が他と比べ低かった。

【問 13】 市の取組みの優先度 (n=731)

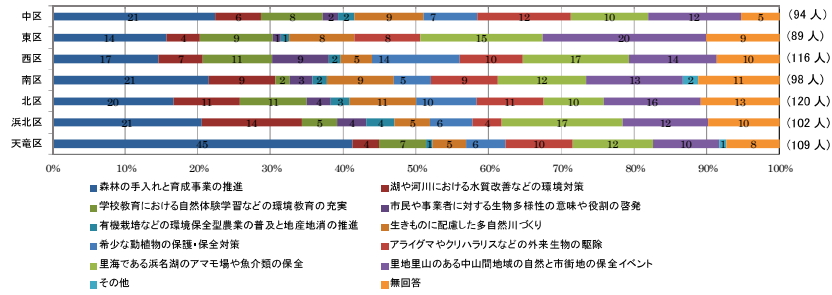


■優先順位1位：年代別

※グラフ内の数は、回答数



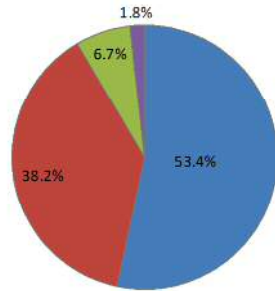
■優先順位1位：居住地別 ※グラフ内の数は、回答数



市の取組みの優先度について

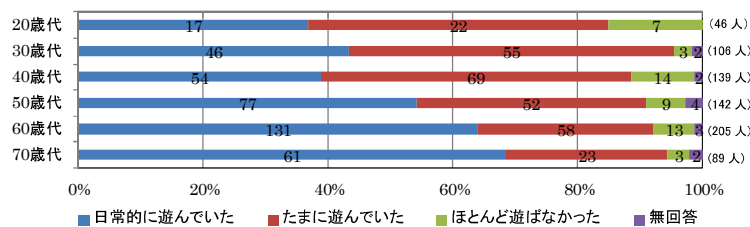
- ・「森林の手入れと育成事業の推進」「湖や河川における水質改善などの環境対策」「学校教育における自然体験学習などの環境教育の充実」等が比較的多かった。
- ・取組み優先度の「その他」としては、「学校教育での生物多様性の重要性についての啓発」「市民における環境学習、観察会」「ペット販売の禁止、制限、登録管理制度等の管理責任の徹底」「イノシシ・サル・シカ等との共存する為の施策」「地元にある身近な自然の保護活動の実施」「里山の活性化」などが挙げられた。
- ・年代別では、70歳代では他の世代に比べると、回答の偏りが少なく、中でも「市民や事業者に対する生物多様性の意味や役割の啓発」は、他の世代と比べ選択率が高かった。
- ・居住地別では、天竜区で「森林の手入れと育成事業の推進」が他の区と比べ圧倒的に高く、地元としての関心の高さが出た傾向となった。

【問 14】 自然の中で遊んだ経験 (n=731)



|              | 人   | %    |
|--------------|-----|------|
| ■ 日常的に遊んでいた  | 390 | 53.4 |
| ■ たまに遊んでいた   | 279 | 38.2 |
| ■ ほとんど遊ばなかった | 49  | 6.7  |
| ■ 無回答        | 13  | 1.8  |

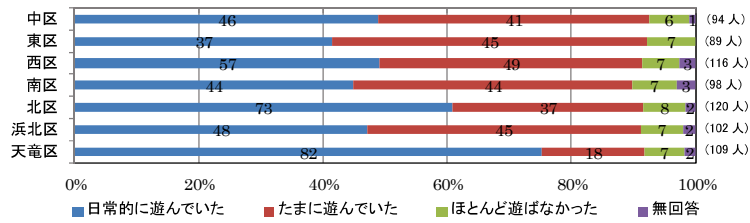
■年代別 ※グラフ内の数は、回答数





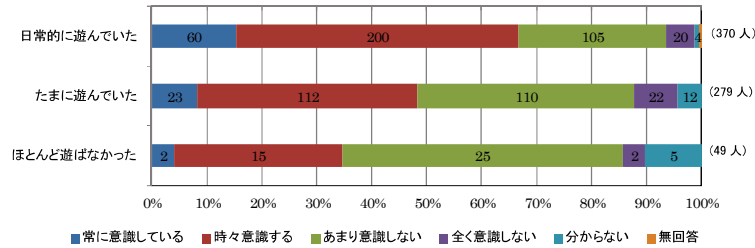
## ■ 居住地別

※グラフ内の数は、回答数



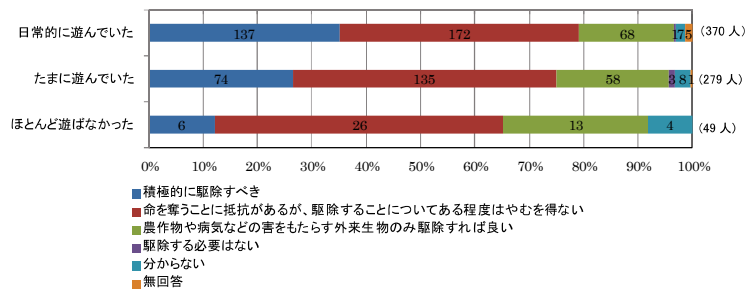
## ■ 農林業と生きもののつながり

※グラフ内の数は、回答数



## ■ 外来生物の駆除

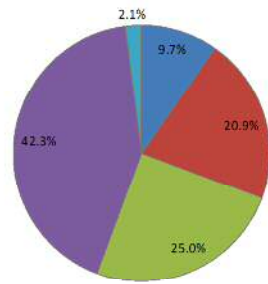
※グラフ内の数は、回答数



### 自然の中で遊んだ経験について

- ・全体としては「日常的に遊んでいた」が最も多かったが、20～40歳代と50～70歳代とで「日常的に遊んでいた」の割合に大きな差があった。
- ・居住地別では、天竜区とそれ以外とで「日常的に遊んでいた」に大きな差が生じた。
- ・「農林業と生きもののつながり」について、自然の中で遊んだ経験が多いほど、「常に意識している」が高くなる傾向が見られた。
- ・「外来生物の駆除」についても、自然の中で遊んだ経験が多いほど、「積極的に駆除すべき」が多くなる傾向が見られた。

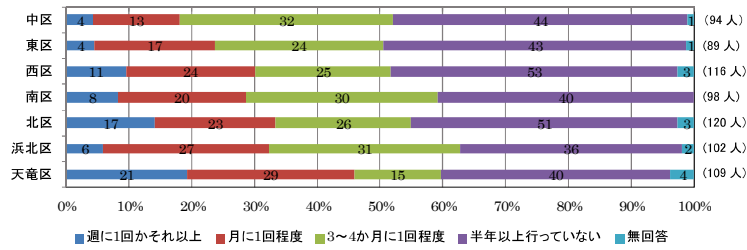
【問 15】 自然の中に出かける機会 (n=731)



|            | 人   | %    |
|------------|-----|------|
| 週に1回かそれ以上  | 71  | 9.7  |
| 月に1回程度     | 153 | 20.9 |
| 3~4か月に1回程度 | 183 | 25.0 |
| 半年以上行ってない  | 309 | 42.3 |
| 無回答        | 15  | 2.1  |

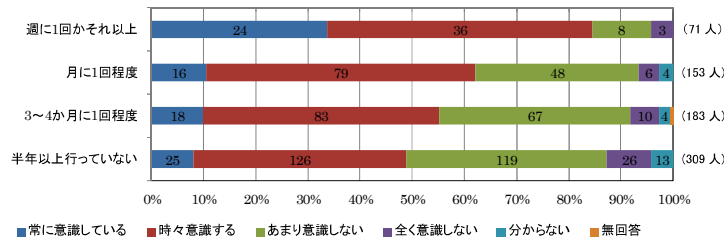
■ 居住地別

※グラフ内の数は、回答数



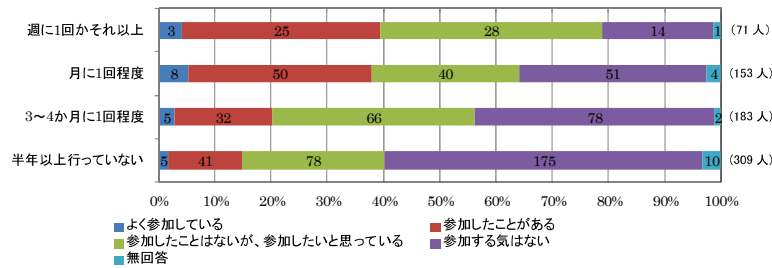
■ 農林業と生きもののつながり

※グラフ内の数は、回答数



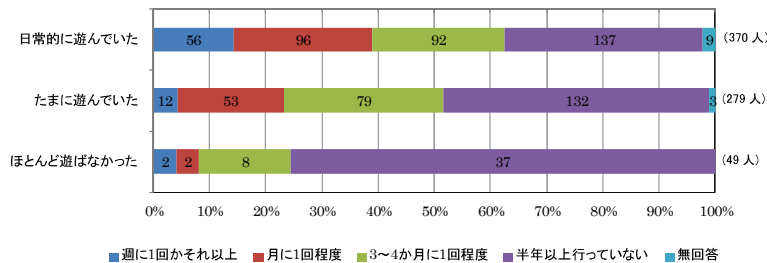
■ 保全活動等への参加

※グラフ内の数は、回答数



■ 自然の中で遊んだ経験

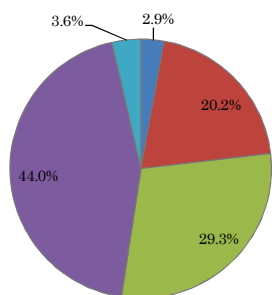
※グラフ内の数は、回答数



#### 自然の中に出かける機会について

- ・全体として「半年以上行っていない」が最も多かった。
- ・居住地別では、天竜区で比較的高い頻度で出かけている傾向が見られた。
- ・「農林業と生きもののつながり」で見ると、「週に1回かそれ以上」自然の中に出かけている場合、「常に意識している」が、他と比べて高い割合を示した。
- ・保全活動等への参加は、自然の中に出かける機会が多いほど、よく参加している傾向が見られた。
- ・自然の中で遊んだ経験が多いほど、頻度が高くなる傾向が見られた。

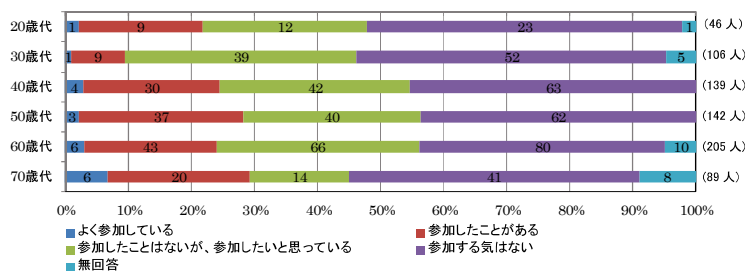
【問 16】 保全活動等への参加 (n=731)



|                        | 人   | %    |
|------------------------|-----|------|
| よく参加している               | 21  | 2.9  |
| 参加したことがある              | 148 | 20.2 |
| 参加したことはないが、参加したいと思っている | 214 | 29.3 |
| 参加する気はない               | 322 | 44.0 |
| 無回答                    | 26  | 3.6  |

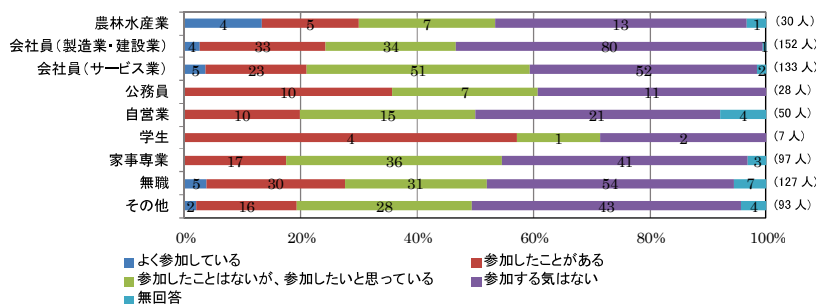
■年代別

※グラフ内の数は、回答数



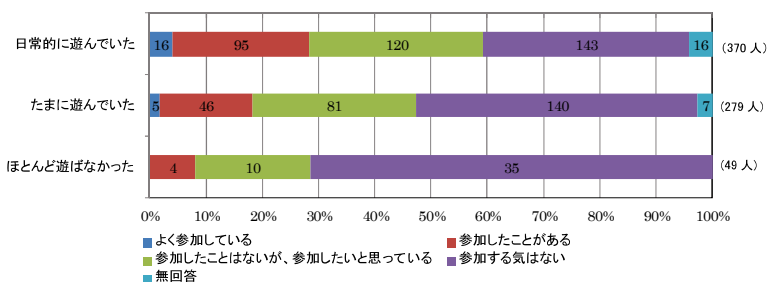
■職業別

※グラフ内の数は、回答数



■自然の中で遊んだ経験

※グラフ内の数は、回答数



保全活動等への参加について

- ・実際の参加は、約2割にとどまることから、保全活動等への参加をどのように促すかが課題であることが分かった。
- ・年代別では、30歳代は「参加したことがある」が他に比べて低かったものの、「参加したいと思っている」が高い傾向が見られた。
- ・職業別では、学生が他の職種と比べ「参加をしたことがある」の割合が著しく高かった。
- ・自然の中で遊んだ機会が少ないと、「保全活動に参加する気はない」の割合が高くなる傾向が見られた。

【問 17】 参加したことのある保全活動

- ・ 浜名湖クリーン作戦
- ・ ウェルカメクリーン作戦(遠州灘海岸(天竜川河口～浜名湖今切口))
- ・ ウミガメの放流会、保全活動
- ・ 天竜川、佐鳴湖、阿多古川、中田島砂丘、藤前干潟、二俣川等の清掃活動
- ・ ボーイスカウト
- ・ 植樹や稲刈り、自然観察会、田植え体験等のイベント
- ・ 自治体や会社が実施する地区内の奉仕活動(ゴミ拾いや清掃活動)

参加したことのある保全活動について

- ・ 浜松市主催の「浜名湖クリーン作戦」や「ウェルカメクリーン作戦」、「ウミガメの放流会、保全活動」への参加が多い傾向が見られた。
- ・ 自然観察会や里山にかかわる活動についてはあまり参加していない傾向にあった。
- ・ 海や河川、湖などで実施されている活動への参加が多い傾向があった。

【問 18】 参加したい保全活動

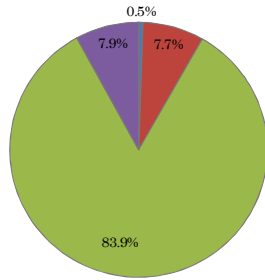
- ・ 自然観察会や環境教育、農業体験
- ・ 河川、海岸の清掃
- ・ 希少な動植物の保護や里山整備、植樹活動
- ・ エコツアー
- ・ ゴミ拾いや清掃活動
- ・ 家族や親子で参加できるイベントや活動

参加したい保全活動について

- ・ 「自然観察会や環境教育、農業体験」や「希少な動植物の保護や里山整備、植樹活動」への参加意欲が特に高い傾向にあった。
- ・ 「家族や親子で参加できるイベントや活動」への参加意欲も高かった。



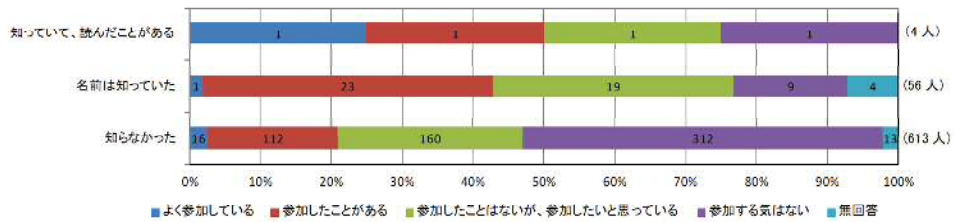
【問 19】 生物多様性はままつ戦略の認知度 (n=731)



|                | 人   | %    |
|----------------|-----|------|
| 知っていて、読んだことがある | 4   | 0.5  |
| 名前を知っていた       | 56  | 7.7  |
| 知らなかった         | 613 | 83.9 |
| 無回答            | 58  | 7.9  |

■ 保全活動等への参加

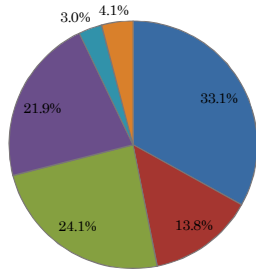
※グラフ内の数は、回答数



生物多様性はままつ戦略の認知度について

- ・「知らなかった」が圧倒的に多かった。
- ・「読んだことがある」「名前を知っていた」では、75%程度が参加を希望しているが、「知らなかった」では、参加希望は50%に満たなかった。

【問 20】 戦略改定の方向性 (n=731)



|                           | 人   | %    |
|---------------------------|-----|------|
| 絵や写真を多く使い親しみやすくする         | 242 | 33.1 |
| 浜松市の自然について詳細なデータを見ることができる | 101 | 13.8 |
| 市の取り組みを詳しく掲載する            | 176 | 24.1 |
| 地域での具体的な活動がよく分かる          | 160 | 21.9 |
| その他                       | 22  | 3.0  |
| 無回答                       | 30  | 4.1  |

戦略改定の方向性について

- ・「絵や写真を多く使い親しみやすくする」が最も多く、「浜松市の自然について詳細なデータを見ることができる」が最も少なかった。

【問 21】 生物多様性に関する意見

- ・過去と現在の生態系の比較した結果や、問題点、改善点などを市民へ積極的に情報提供してほしい。
- ・生きものに触れる機会が少なく、生きものとのつながりを大切にしたい。
- ・学校教育や子どもたち対象の観察会やイベントを開催する。子どもを通じて大人も関心が持てるようにする。
- ・環境関連の観察会やイベントをもっと開催して、周知してほしい。
- ・多くの市民に知ってもらって、市民一人一人が理解して、出来ることを実践できる施策が必要。
- ・今回のアンケートを通じて興味、関心が湧いた。
- ・身近なところで外来種を最近よく見かける。
- ・外来種だからと言って駆除するのはかわいそう。共存してはいけないのか。
- ・外来種の取締や駆除を徹底してほしい。また、外来種の生態やどこにいるのかが知りたい。
- ・「生物多様性」の意味がよく分からない。分かりやすく説明してほしい。
- ・「生物多様性」や「生物多様性はままつ戦略」については知らなかった。PR、広報活動が足りていない。
- ・「広報はままつ」に「生物多様性」や「生物多様性はままつ戦略」について掲載する。また保全活動の紹介やイベントの掲載してほしい。
- ・人目に触れやすい駅等で、市の取組みや活動の紹介のパネルなどを設置したり、パンフレットを配る。
- ・テレビや新聞などのメディアを通じてのPR活動
- ・子どもたちや次世代の人々に浜松の豊かな自然を残してあげたい。
- ・浜名湖や佐鳴湖などの水質改善や環境保全に特に力を入れたい。
- ・里山の整備、山間地域の改善、活性化
- ・昔はよく見かけた生きものが見れなくなった。
- ・昔ながらの自然や風景、生きものを守りたい。
- ・他県から移住してきて、浜松市の豊かな自然に驚いた。
- ・自然環境や希少生物を保護してほしい。

生物多様性に関する意見について

- ・「生物多様性や外来種に関する情報提供や普及啓発の要望」「観察会やイベント等開催の要望や開催の普及啓発の要望」「市内の自然を次世代に残したい」といった意見が挙げられた。

(2) 生物多様性はままつ戦略タウンミーティング

① 「いきものの未来を考える～日本の原風景から～」

- 1) 実施日時：平成 29 年 10 月 21 日（土）12:30～17:05
- 2) 実施場所：・浜松市立引佐北部小中学校（多目的室）・久留女木の棚田  
・別所ビオトープ
- 3) 参加者：7 組計 15 名（大人 9 名、子供 6 名）（1 組 1 名は当日不参加）
- 4) 実施工程

| 時間          | 実施内容                                                                                               | 案内・説明者                             |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| ～12:30      | 集合等<br>・引佐北部小中学校駐車場                                                                                | 浜松市環境政策課                           |
| 12:40～      | バス移動（1 台）                                                                                          |                                    |
| 13:00～14:10 | 1) 自然体験プログラム①<br>・久留女木の棚田                                                                          | NPO 法人ひざるしい鎮玉<br>(現地説明：久留女木竜宮小僧の会) |
| 14:15～      | バス移動（1 台）                                                                                          |                                    |
| 14:25～15:00 | 1) 自然体験プログラム②<br>・別所ビオトープ                                                                          | NPO 法人ひざるしい鎮玉                      |
| 15:05～      | バス移動（1 台）                                                                                          |                                    |
| 15:20～15:40 | 2) 生物多様性はままつ戦略・戦略改定について<br>・引佐北部小中学校多目的室                                                           | ㈱地域環境計画                            |
| 15:45～17:00 | 3) ワークショップ<br>・引佐北部小中学校多目的室<br>①浜松市内で守っていききたい生き物・場所・食・文化<br>②守っていくための課題<br>③課題解決のための具体的な行動<br>④まとめ | ㈱地域環境計画                            |
| ～17:05      | 挨拶等                                                                                                | 浜松市環境政策課                           |

5) 実施状況

ア) 自然体験プログラム

a) 久留女木の棚田

- 現地説明：久留女木竜宮小僧の会
- 説明内容：・棚田の現状、維持管理等について ・竜宮小僧の見学、説明



棚田管理等にて棚田の解説



棚田、ため池の見学



棚田の見学



竜宮小僧の見学



バス移動の状況

b) 別所ビオトープ

○現地説明：NPO 法人ひずるしい鎮玉

○説明内容：・ビオトープの成り立ち等について

- ・ビオトープの散策、生き物採集
- ・ビオトープで確認された生き物紹介



ビオトープの紹介



ビオトープの見学



ビオトープの生き物採集



採集した生き物の紹介

イ) 生物多様性はままつ戦略・戦略改定について

○説明：(株)地域環境計画

○説明内容：・生物多様性とは

- ・生物多様性はままつ戦略及び戦略の改訂について
- ・パワーポイント資料を使用、印刷物も配布



会場（引佐北部小中学校 多目的室）



説明の実施状況



説明の実施状況





## ウ) ワークショップ

○説明：(株)地域環境計画

○説明内容

・グループによる意見交換・検討・発表（8名と7名の2グループで実施）

①浜松市内で守っていききたい生き物・場所・食・文化のピックアップ

参加者各自が守っていききたいと思うものを付箋に記入し、市域の空中写真に貼っていく。

②守っていくための課題、③課題解決のためにどうすればいいかの検討

参加者からあがった「守りたいもの」をグループで2つに絞り込む。選定した2つの守っていききたいものについて、課題や対策を意見交換する。

④まとめ（発表）（各グループの代表1名）

検討した内容を発表（各グループ1つを選定）。

○議論の概要

【A グループ】

議論のテーマを「篠原川」として、挙げた課題は、「川にゴミが多くヘドロがたまっている」「外来種が多い」「地元の人が現状の把握をできていない」などであった。これらに対し、具体的に、「川の清掃」「外来種の駆除」「近隣の小学校で授業の題材として扱ってもらう」「広報活動に力を入れる」などが課題解決策として提案された。

【B グループ】

議論のテーマを「田んぼの風景」とし、挙げた課題は、「後継者不足で生産者が減ることで田んぼが荒れて、生き物も風景も失われている」「久留女木の棚田の観光客のマナーが悪い」などであった。これらに対し、具体的に、「田んぼオーナー制度を活かして米作りの指導を行い、後継者を育てる」「保護者同伴で小中学校への出張授業」「遠足先にする」「入場料を払ってもらい、保全活動の資金にする」などが課題解決策として提案された。



各グループで、各自の守っていききたいものをピックアップ



各グループで課題を検討



各グループの代表による発表





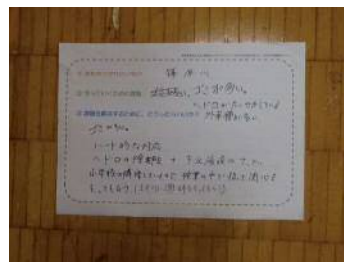
ワークショップであがった意見等(1)

| グループ検討項目 | A グループ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | B グループ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 守りたいもの   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテルの出る場所</li> <li>・ホテルの田んぼ</li> <li>・海の魚</li> <li>・浜名湖のタコ、イセエビ</li> <li>・村櫛の常緑林(コナラ、アラカシ、アオバト)</li> <li>・引佐湖(あまり手を入れていない自然)</li> <li>・新川(テナガエビ、ハゼ、ウナギ)</li> <li>・篠原川(メダカ、ナマズ、ハヤ、フナ、エビ、スッポン、カワセミ、ヘビ)</li> <li>・佐鳴湖(カワセミ)</li> <li>・天竜川(コサギ、アオサギ)</li> <li>・天竜川・支川</li> <li>・山を少しだけ手入れ!</li> <li>・引佐地区田園風景</li> <li>・久留女木川</li> <li>・森林公園(湿地、シラタマホシクサ)</li> <li>・秋の渡り(サシバ)</li> <li>・水窪(ニホンカモシカ)</li> <li>・渋川ギフチョウ</li> <li>・野鳥の森</li> <li>・山王峡</li> <li>・滝沢放歌祭り</li> <li>・寺野・川名のひよんどり</li> <li>・懐山・神沢 おくない</li> <li>・火祭り</li> <li>・春塾杉</li> <li>・観音山(北条峠)</li> <li>・青崩(しっぺい太郎の足跡)</li> <li>・いろいろな多様性</li> <li>・渋沢栄一が建てた倉庫</li> <li>・川合 花</li> <li>・原田橋の教訓</li> <li>・京丸ぼたん伝説</li> <li>・天正3年勝坂で敗れた家康が座った石</li> <li>・山住神社</li> <li>・V字谷、中央構造線</li> <li>・北条峠のそば屋</li> <li>・うなぎパイ、源氏パイ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐鳴湖の魚</li> <li>・うなぎ</li> <li>・あさり</li> <li>・しらす</li> <li>・遠州灘のアカウミガメ</li> <li>・河川敷のトンボ</li> <li>・森林公園(湿地)</li> <li>・田んぼの風景</li> <li>・鎮玉のタガメ</li> <li>・枯山のギフチョウ</li> <li>・アユの友釣り</li> <li>・渋川のシブカワツツジ、シブカワニンジン、シブカワシラギク</li> <li>・白倉峡のモミジ</li> <li>・枯山のカタクリ、ギフチョウ</li> <li>・野鳥の森(ブナ林)</li> <li>・中ノ尾根山の植物</li> <li>・楽器</li> </ul> |

ワークショップであがった意見等(2)

| グループ検討項目                                   | A グループ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | B グループ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>選定した<br/>守りたいもの<br/>(各グループ2つ)</p>       | <p>○篠原川<br/>○渋川のギフチョウ</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>○田んぼの風景<br/>○うなぎ</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>守っていくための<br/>課題</p>                     | <p>○篠原川<br/>・ゴミが多い<br/>・ヘドロが堆積している<br/>・下水の流入による水質悪化<br/>・コンクリートの3面護岸<br/>・外来種が多い<br/>・近所の人にも現状を知られていない<br/>○渋川のギフチョウ<br/>・卵の乱獲<br/>・見守る人(監視する人)が少ない<br/>・規制範囲が必要<br/>・ギフチョウについて知られていない<br/>・指導者不足<br/>・NPOでも若い人が少ない<br/>・条例で罰則を設ける？</p>                                                                                                                                             | <p>○田んぼの風景<br/>・人がいない(人口減少、後継者不足)。<br/>・土地改良(水路のコンクリート化、排水がよすぎる)のため水生生物が減った<br/>・棚田では、機械が入れない土地で良い米を手間をかけて作っているが、なかなか買い手がつかない<br/>・稲を干さずに機械で乾燥させるようになっているので、秋の風景が失われていく<br/>・機械化でCO2が出る。環境破壊？<br/>・温暖化による気候の変化<br/>・生産者が減ることで田んぼが荒れて風景も生き物も失われている<br/>・食糧問題<br/>・観光で人が来てもマナーの問題がある<br/>○うなぎ<br/>・うなぎの生態が不明<br/>・ダムで遡上できない<br/>・ダムで浜名湖がよごれる(農薬の影響?)<br/>・餌が少なくなっている</p> |
| <p>課題解決のために<br/>どうすればいいか<br/>(◎:発表テーマ)</p> | <p>◎篠原川<br/>・ゴミ拾い<br/>・ヘドロの除去<br/>・自然河川のような水際の整備(ハード面の対応)<br/>・外来種の駆除(実際にできるか?)<br/>・下水整備の徹底<br/>・小学校に隣接しているので、授業の中で扱い、関心を持ってもらう(まずは川に興味を持ってもらう)<br/>○渋川のギフチョウ<br/>・規制範囲の拡大<br/>・人が入らないように囲う<br/>・観察する施設を造る<br/>・時期(卵期等)を決め立ち入り規制する<br/>・食草のカンアオイを増やす<br/>・広報活動(卵などを採らない、ギフチョウをもっと知ってもらう)<br/>・人材育成・指導者養成<br/>・乱獲する人を活用する(ギフチョウの繁殖)、ただし、別の地域への持ち出しなどをしないようにしっかりした管理が必要(遺伝子の問題など)</p> | <p>◎田んぼの風景<br/>・棚田で入場料をとる。保全に使う<br/>・田んぼオーナー、米の作り方を指導<br/>・地元の米を食べる<br/>・源流近くの水(きれいな水)で作られているお米、というブランドで売る<br/>・生産者との関係づくり<br/>・品種改良(JA、行政、大学で連携)<br/>・若い世代、小中学生への出張授業<br/>・子供会、自治会の遠足先にする(保護者も同行)<br/>・山の田んぼ、町の田んぼの交流<br/>○うなぎ<br/>・ダム撤去!<br/>・採りすぎ(禁漁期、土用の丑の日に食べない)</p>                                                                                              |

OA グループ



ワークショップの発表資料

OB グループ



ワークショップの発表資料

② 「いきものの未来を考える～街中からできること～」

- 1) 実施日時：平成 29 年 10 月 28 日（土）13:00～17:15
- 2) 実施場所：遠鉄百貨店新館 13 階 会議室⑤
- 3) 参加者：14 組計 17 名（大人 17 名）（うち 1 組 1 名はワークショップ不参加）  
（参加者のうち 1 組 1 名はワークショップ不参加）（2 組 2 名は当日不参加）
- 4) 実施工程

| 時間          | 実施内容                                                                                                          | 案内・説明者                                                        |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 12:30～      | 受付                                                                                                            | ㈱地域環境計画                                                       |
| 13:05～      | 挨拶等                                                                                                           | 浜松市環境政策課                                                      |
| 13:10～13:25 | 1) 生物多様性はままつ戦略及び戦略の改定について                                                                                     | 浜松市環境政策課                                                      |
| 13:25～15:00 | 2) 市内の生物多様性に関する活動紹介<br>① ミシシippアカミミガメをとって食べる！？<br>② 自然豊かな里山景観を再生<br>③ 浜名湖の自然とアマモ場の重要性<br>④ ホテル舞う美しい里山環境を守るために | ① 昆虫食倶楽部<br>② 椎ノ木谷保全の会<br>③ NPO 法人はまなこ里海の会<br>④ NPO 法人ひずるしい鎮玉 |
| 15:10～17:10 | 3) ワークショップ<br>① 浜松市内で守っていききたい生き物・場所・食・文化<br>② 守っていくための課題<br>③ 課題解決のための具体的な行動<br>④ まとめ                         | ㈱地域環境計画                                                       |
| ～17:15      | 挨拶等                                                                                                           | 浜松市環境政策課                                                      |

5) 実施状況

ア) 生物多様性はままつ戦略・戦略改定について

- 説明：浜松市環境政策課
- 説明内容：
  - ・生物多様性はままつ戦略及び戦略の改訂について
  - ・市民アンケートの実施結果について
  - ・パワーポイント資料を使用、印刷物も配布



会場（遠鉄百貨店新館 13 階 会議室⑤）



説明の実施状況

## イ) 市内の生物多様性に関する活動紹介

### a) ミシシippアカミミガメをとって食べる!?

○説明：昆虫食倶楽部

○説明内容：

- ・活動紹介（バッタやセミ、ハチの子、ザリガニ、イノシシ等を参加者と共にとって食べるということをしている）
- ・佐鳴湖でのミシシippアカミミガメの取組み（月1回の駆除、5～9月で270個体、カレーにして食べた、課題は1匹あたりの肉の量が少ないこと、甲羅は楽器に）
- ・外来種に関する啓蒙活動の取組み（大切なことはミシシippアカミミガメの失敗を繰り返さないことと考えている、シンポジウムの実施等）
- ・パワーポイント資料を使用。昆虫食倶楽部のチラシを配布。



説明の実施状況

### b) 自然豊かな里山景観を再生

○説明：椎ノ木谷保全の会

○説明内容：

- ・活動場所の紹介（三方原台地の段丘に位置、ミカワバイケイソウ・フクロウ等の希少種が生育・生息、クリハラリス等の外来種もいる）
- ・活動内容（竹林の管理、放棄水田の再生、梅林の管理と利用、畑の活用等、高校生や子供達（椎ノ木谷キッズ）等とも協力しながら活動継続）
- ・活動の課題（担い手の高齢化、参加動機や参加スタンスの個々のギャップ、生物多様性への理解度の違い、目標とする里山生態系をどこに見据えるか等）
- ・パワーポイント資料を使用。椎ノ木谷保全の会のチラシを配布。





説明の実施状況

c) 浜名湖の自然とアマモ場の重要性

○説明：NPO 法人はまなこ里海の会

○説明内容：

- ・浜名湖とは（汽水湖になってからの歴史はまだ浅い、法律的には都田川の河口という位置づけ、日本で最も見られている湖（高速道路、新幹線、JR 在来線））
- ・アマモについて（アマモは海藻ではなく海草、生育には浜名湖の深すぎない水深がちょうど良い）
- ・漁場としての浜名湖（海の生き物を育むアマモがあることで豊かな生物相がある、浜名湖で獲れる魚等はものが良すぎて築地に行ってしまう、遠州灘産も含め浜松のスーパーには並ばない）
- ・パワーポイント資料を使用。浜名湖フィールドガイドと浜名湖湖上遊覧案内パンフレットを配布。



説明の実施状況

d) ホタル舞う美しい里山環境を守るために

○説明：NPO 法人ひずるしい鎮玉

○説明内容：

- ・活動内容（地域活性化を目指し活動、ホタルと水生生物を増やすことを柱に活動、川環境の整備やビオトープの整備等）
- ・各種団体との取り組み（常葉大学や湖北高校とは生態調査等を共に実施、地元引佐北部小中学校とは児童の環境学習をサポート）
- ・活動の成果（タイコウチやタガメ等の希少種をビオトープで確認、ホタルの数も全国トップクラスに）
- ・パワーポイント資料を使用。田んぼオーナー募集のパンフレットを配布。



説明の実施状況

ウ) ワークショップ

○説明：(株)地域環境計画

○説明内容：

- ・グループによる意見交換・検討・発表（11名と9名の2グループで実施）
- ①浜松市内で守っていききたい生き物・場所・食・文化のピックアップ  
参加者各自が守っていききたいと思うものを付箋に記入し、市域の空中写真に貼っていく。
- ②守っていくための課題、③課題解決のためにどうすればいいかの検討  
参加者からあがった「守りたいもの」をグループ内で絞り込む。選定した守っていききたいものについて、課題や対策を意見交換する。
- ④まとめ（発表）（各グループの代表1名）  
検討した内容を発表（各グループ1つ）。

○議論の概要

【Aグループ】

議論のテーマを「浜名湖のおいしい魚介」として、挙げた課題は、「浜名湖のうなぎ以外の魚介の良さや、獲れた魚介の大半が捨てられているこ

とを地元の人が知らないこと」「浜名湖の魚介を守っていくこと」などであった。これらに対し、具体的に、「レシピ本の出版」「浜名湖での食巡りツアーの企画」「釣り人口を増やす」「学校の給食や食堂で浜名湖産のメニューを取り入れる」などが課題解決策として提案された。

【Bグループ】

議論のテーマを「緑のつながり・連続性」とし、挙げた課題は、「緑地の開発が進み、自然の繋がりが失われつつある」「過疎化が進み担い手不足で、保全活動や維持管理が困難である」などであった。これらに対し、具体的に、「放棄された土地や空き家の活用」「環境教育や交流会などのイベントの開催」「企業や大学との連携を図る」などが課題解決策として提案された。



各グループで、各自の守っていききたいものをピックアップ



各グループで課題を検討



各グループの代表による発表



ワークショップであがった意見等(1)

| グループ検討項目 | A グループ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | B グループ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 守りたいもの   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松で見られる冬山雪景色</li> <li>・サンコウチョウ (見てみたい)</li> <li>・在来種、固定種の野菜、雑穀 (+生活、農文化)</li> <li>・アカヤシオ、シロヤシオ</li> <li>・オオセンチコガネ、ダイコクコガネ (竜頭山)</li> <li>・河川・ダム (ボート甲子園)</li> <li>・クロスズメバチ</li> <li>・ハチ追いの文化</li> <li>・蛇紋岩露頭 (観音山)</li> <li>・タガメ</li> <li>・オモイガケナマイマイ (亜種)、ベニゴマオカタニシ (立須、石灰岩露頭)</li> <li>・赤チャート露頭 (館山寺大草山)</li> <li>・里山のニホンイシガメ (クサガメどうする??)</li> <li>・ミカワマイマイ (大きいタイプ) 鷺沢風穴</li> <li>・天然のウナギ</li> <li>・天竜川の魚 (アユカケ、ニホンウナギ、アユ、アマゴ、モクズガニ、テナガエビ)</li> <li>・カワバタモロコ</li> <li>・オオキセルガイ (滝沢鍾乳洞)</li> <li>・棚田の景観、自然</li> <li>・陸生ボタル、キセルガイ (トンボ池、館山寺町)</li> <li>・ギフチョウ</li> <li>・フクロウ (エサとエサ場、産卵場の保全)</li> <li>・天竜川河岸段丘の斜面林、湧水</li> <li>・ニホンミツバチ</li> <li>・ニホンイシガメ</li> <li>・三方原防風林</li> <li>・浜名湖の美味しい魚介</li> <li>・食べられる海そうがたくさん (種類) ある、地元の人が採りにくる (内山海岸)</li> <li>・浜名湖周辺の農作物 (みかんなど)</li> <li>・シロボヤ (浜名湖)</li> <li>・ヒラムシ (浜名湖、内山海岸)</li> <li>・神久呂エリア 田園風景</li> <li>・椎ノ木谷の里山</li> <li>・水田 (ニホンイシガメ、ニホンアカガエル、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル)</li> <li>・天竜川氾濫原の植生 (カワラハハコ、カワラナデシコ、カワラヨモギ)</li> <li>・佐鳴湖</li> <li>・カワセミ (佐鳴湖)</li> <li>・佐鳴湖のカニ 車でつぶされないように</li> <li>・市街地に残る水田 (貯水機能大事)</li> <li>・アカウミガメ (砂丘)</li> <li>・中田島砂丘</li> <li>・遠州灘海岸 (アカウミガメ)</li> <li>・遠州灘の海浜植生、周辺湿地</li> <li>・ガザミ、ノコギリガザミ、タイワンガザミなど冬に打ちあがる (浜名湖)</li> <li>・湖と水資源 (ウナギ、スッポン、フグ他)</li> <li>・うなぎ</li> <li>・楽器文化</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブナ林</li> <li>・水窪ブナ林の保全</li> <li>・水窪・天竜、野鳥の森</li> <li>・天竜林業</li> <li>・ヤシオツツジ</li> <li>・春野杉</li> <li>・森林生態系</li> <li>・白倉の自然</li> <li>・久留女木川流域</li> <li>・棚田</li> <li>・気田川</li> <li>・阿多古川</li> <li>・天然アユ</li> <li>・蛇紋岩地</li> <li>・引佐 三岳山の石灰岩地の陸貝</li> <li>・引佐の山々の生きものたち</li> <li>・貧栄養湿地</li> <li>・都田総合公園内の増沢池周辺の昆虫</li> <li>・都田川河口周辺の水生生物や昆虫</li> <li>・都田川の生態系</li> <li>・茶畑</li> <li>・「市民の森」、民有地を守る</li> <li>・今宅地化が進む佐鳴湖北側の安産の森</li> <li>・佐鳴湖</li> <li>・佐鳴湖と周辺の森</li> <li>・佐鳴湖の北側に多い湧水を守りたい (街中からできること)</li> <li>・里湖としての佐鳴湖を守りたい</li> <li>・佐鳴湖から浜名湖への水路 (新川) の生態系</li> <li>・浜名湖</li> <li>・浜名湖全域のアマモ場</li> <li>・浜名湖で行われる特殊な漁法</li> <li>・天竜川河口・馬込川河口のアシ原</li> <li>・海岸の松</li> <li>・中田島やいかり瀬の海浜植物</li> <li>・中田島砂丘景観</li> <li>・海浜植生</li> <li>・遠州灘の砂丘風景、心の風景を守る</li> <li>・各地にある神社・仏閣にある森 (鎮守の森)</li> <li>・市内各公園</li> </ul> |

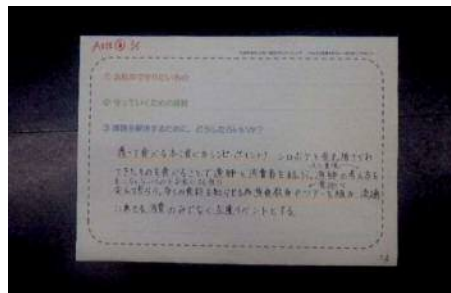
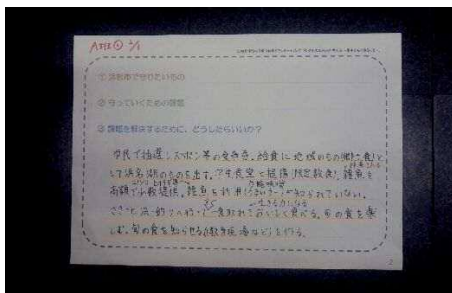
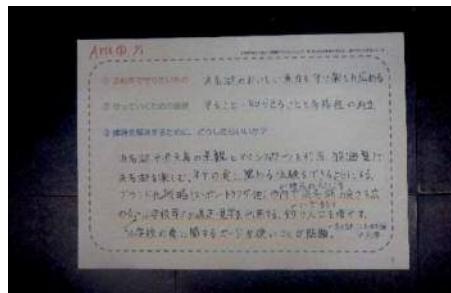
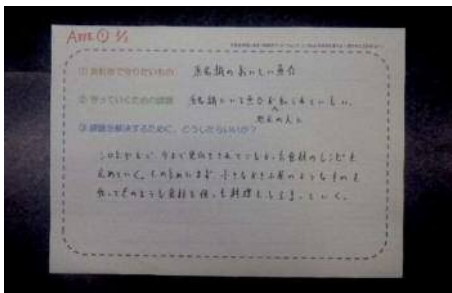
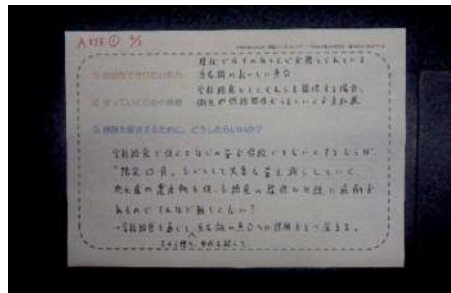
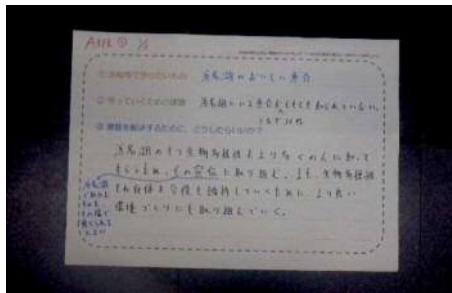
ワークショップであがった意見等(2)

| グループ検討項目       | A グループ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | B グループ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 選定した<br>守りたいもの | ○浜名湖のおいしい魚介                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | ○緑のつながり・連続性をどのように守るか(都市近郊の開発、里山の荒廃)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 守っていくための<br>課題 | <p>○浜名湖で獲られた魚介のうちそのほとんどが捨てられているという現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜名湖には 870 種もいるのに売れるのは 20 種くらい</li> <li>・浜松市内では浜名湖産はほとんど出回らない</li> <li>・廃棄させずに流通させることが重要</li> <li>・食べる人がいないと流通しない</li> <li>・浜松では食べる習慣の無いものも、他の地域では食べる習慣(文化)があったりする</li> </ul> <p>○浜名湖にいる魚介がうなぎ以外そもそも知られていない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宣伝が全然できていない</li> <li>・浜名湖は景観も良いが地元の人が知らない</li> <li>・景観だけ消費されて終わっている場合も多々あるのではないか</li> <li>・市外から来た人には好評のたきや漁も、実は地元の人ほとんど行っていない</li> </ul> <p>○浜名湖の魚介を守ること、知らせることと多様性の両立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質(下水道が発達しすぎて、水がきれいになりすぎた?ダムにより供給される水の量が減った)</li> <li>・教える場の重要性</li> </ul> | <p>○都市近郊の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近では工事技術の発達などもあって急傾斜地などのこれまでは手を付けられなかった緑地までも開発されるようになっている</li> <li>・自然の繋がりが失われつつある</li> </ul> <p>○確保した緑地などをどう維持していくか(維持管理)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過疎化による人手不足</li> <li>・移住を進めようとしても、住居不足、交通アクセスの不便、教育や災害等への不安などがある</li> <li>・移住する人についても、地域と交流できる人、保全活動などに参加してもらうための基本的なスキルを持ってほしい</li> <li>・保全活動の担い手不足。保全活動に参加者が集まらない。一時的な参加にとどまる</li> <li>・保全活動に参加しづらい(アクセス、窓口、活動内容など)</li> <li>・人と人、団体などの中での交流や連携がもっとあってもよいのでは</li> <li>・浜松市の魅力を全国に伝えることができていないのでは</li> <li>・各地域の魅力を地元の人たちも知らない</li> </ul> |

ワークショップであがった意見等(3)

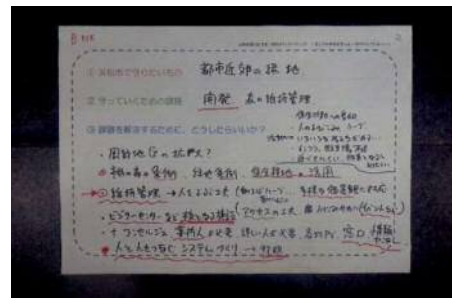
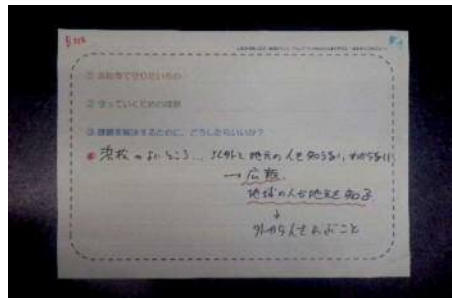
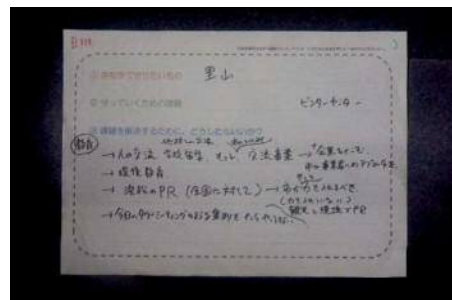
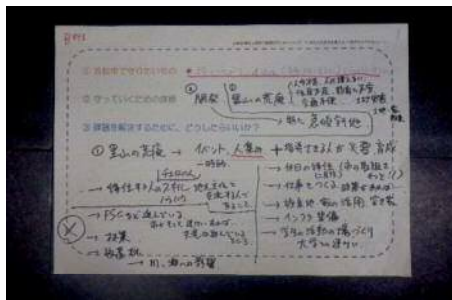
| グループ検討項目                                   | A グループ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | B グループ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>課題解決のために<br/>どうすればいいか<br/>(◎：発表テーマ)</p> | <p>◎浜名湖で獲られた魚介のうちそのほとんどが捨てられているという現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・捨てられている魚（雑魚）の利用の促進</li> <li>・学校給食で浜名湖の魚介を提供し、理解をより深める（学校給食で、子供が親に話をすることで、逆に親世代に伝えられる）</li> </ul> <p>◎浜名湖にいる魚介がうなぎ以外そもそも知られていない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜名湖で獲れたものをその場で食べられるようにする（牡蠣小屋のような場所）</li> <li>・「ここでしか食べられないもの」という付加価値付け（例えば、「限定〇食の深海魚丼」等）</li> </ul> <p>◎浜名湖の魚介を守ること、知らせることと多様性の両立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・釣り人口をもっと増やす</li> <li>・地元の人に浜名湖の良さを伝えるため、まずは小学校等での遠足、見学での利用を促進</li> <li>・雑魚から作られている調味料（魚醤（うまいラー）等）の存在をもっとアピール、食材そのものではなく、調味料等も給食等で利用してもらえる</li> <li>・高校や大学の食堂との提携</li> <li>・旬のものを食べる、楽しむことを教育現場等で伝えていく機会を作る</li> <li>・今まで見向きされてこなかった食材のレシピを広めていく、食べ方や調理のポイント等のレシピ本の作成と配布</li> <li>・漁師と消費者を結んでいくような仕組みづくりから、漁師の考え方や意識を変えていく</li> <li>・様々な食材をより多くの人に知ってもらうため、山のもの海のもの食べる食巡りツアー等を実施し、流通に乗せていくようなきっかけ作りを</li> </ul> | <p>◎都市近郊の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風致地区の拡充</li> <li>・市民の森条例、緑地条例、保全緑地の活用</li> <li>・浜松市ではFSC森林認証取得は進んでいる、市がもっと連携して推進していければよい</li> </ul> <p>◎維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放棄された土地や空き家の活用</li> <li>・休日の移住（二居住）の推進（市の取り組みをもっと活発化させる）</li> <li>・地域で仕事をつくる政策があれば</li> <li>・様々なインフラ整備</li> <li>・人を呼ぶ工夫、例えばハーブのための草刈りイベントなど</li> <li>・多様な価値観に対応したイベント、ベネフィットを意識したイベントなど</li> <li>・アクセスの工夫、駐車場の整備など。例えば椎ノ木谷に駐車場をつくってもよいのでは</li> <li>・活動団体に入り込みやすい工夫（敷居を下げたイベントなど）</li> <li>・案内人、コンセルジュといったその地域の自然などに詳しい人材、指導できる人材を育成し、配置する</li> <li>・ビジターセンターなどの核となる施設、各エリアで窓口や情報センターを整備する</li> <li>・人と人をつなぐシステムづくり</li> <li>・浜松市にはたくさんの企業がある、企業をもっと巻き込んでいくための工夫、広報、CSR活動や企業研修などの場としての活用推進</li> <li>・小中学校間の留学などの交流事業の推進</li> <li>・大学との連携、学生の活動の場づくり</li> <li>・浜松市の魅力を全国に発信・PRする（行政の役割？）</li> <li>・地域の人たちが地元のことをもっと知る、環境教育の充実</li> <li>・今回のタウンミーティングのような集まりをもっと増やして交流を図る</li> </ul> |

OA グループ



ワークショップの発表資料

OBグループ



ワークショップの発表資料